

事業者排出量削減計画書（新規 **変更**）

| | | | | | |
|---------------------------|--|--|---|-----------------------------------|-------------|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 大阪市中央区北浜2-6-18 | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | 株式会社ベネシス 取締役社長 島 義尚 | | | | |
| 事業者の主たる業種 | 医薬品製造業 | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | |
| 計画期間 | 平成 20年 4月 ～ 平成 23年 3月 | | | | |
| 基本方針 | 省エネの推進、廃棄物排出量の削減、リサイクルの推進を進め、ISO14001環境マネジメントシステム による環境負荷の低減を図る。 | | | | |
| 推進体制 | 環境安全責任者（工場長）を長として、その下に環境管理責任者による環境委員会、ISO推進部会を設置し 事業所内の環境管理を行う。 | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | ISO14001 | | | |
| | 適用範囲 | 京都工場 | | | |
| | 取得年月日 | 2000年10月 | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の計画 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 計画内容 | | |
| | 20年 | 圧縮空気設備 | 負荷に見合ったエアコンプレッサー容量に変更及び1台をインバータ制御に更新する（91.7t-CO2削減） | | |
| | 20年 | ボイラー設備 | 貫流ボイラーの燃焼制御方法をインバータ制御に変更することにより（20.2t-CO2削減） | | |
| | 21年 | 空調設備 | 冷水ポンプ等をインバータ制御に変更する（60.4t-CO2削減） | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 21年 | 生産設備 | 高圧ポンプをインバータ制御に変更する（17.3t-CO2削減） | | |
| | 22年 | 空調設備 | 外気導入箇所の変更により空調チラーの運転を減少する（19.5t-CO2削減） | | |
| | | 排出区分 | 基準年度（実績） （平成19）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （平成22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） |
| | A | 事業所等排出区分 | 17,307 t | 16,576 t | -4.2 % |
| | B | 輸送車両排出区分 | t | t | % |
| | C | その他排出区分 | 25 t | 1 t | -96.0 % |
| | | 排出合計 | *1 17,332 t | *2 16,577 t | -4.4 % |
| | 目標設定の考え方 | 廃液焼却炉の全面停止、従業員全員を対象に環境提案活動推進することにより、省エネ、CO2削減に取り組む | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） |
| | 京都工場 | 二酸化炭素換算 標準原価の出荷額 | 1.910 | 1.752 | -8.3 % |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % |
| | 原単位の指標及び計画数値設定の考え方 | 原単位の指標は、経済産業省に提出する原単位に使用している。期中計画により4%増を見込んでいる。 | | | 中長 |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | | 目標年度（計画） | | |
| | | | 取組量等 （二酸化炭素換算） | | |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | t |
| | 府内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | t |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （売電量） | kwh | （削減量） | t |
| | | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t |
| | グリーン電力の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） | t |
| | 削減量等合計 | | *3 | t | |
| | 差引排出量 （排出合計－削減等合計） | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | |
| | | *1 17,332 t | (*2)-(*3) 16577 t | -4.4 % | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | 工場周辺の美化活動（クリーンキャンペーン）2回／年実施 | | | | |
| 特記事項 | | | | | |

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。